

聖木曜日 主の晩さんの夕べのミサ
ヨハネ 13・1-15

洗足の意味と聖体の制定

2014.4.17

柴田 潔(イエズス会司祭)

導入

3年ぶりに高円寺教会に帰ってきて、ミサをお捧げできることに感謝します。そして、今日は聖木曜日の典礼です。わたしたちが、洗足の意味、聖体を制定されたイエスさまの思いをより深く理解できることを願ってミサを始めましょう。

説教

イエスさまは受難に向かう直前に、最後の晩餐の席を弟子たちのために設けます。その途中で弟子たちの足を洗います。今日は、「洗足」の意味と「聖体を制定されたイエスさまの思い」の2つを考えます。

ヨハネ福音書では、聖体の秘跡の制定が記されていないので、その代わりになるものが「洗足式」だという考え方があります。けれども、「洗足」と「聖体の制定」は少しニュアンスが違うように思います。ヨハネ福音書には「私は新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。」という言葉が何度か出てきます。ユダヤ教から離れて新しい宗教（生き方）に変わっていく予告されていました。そして「足を洗い合う姿」でイエスははっきりとユダヤ教徒の違いを示しました。“洗足”は、互いに愛し合う“しるし”です。イエスが弟子たちの足を洗ったように愛し合いましょう。教会の共同体、家族、職場の仲間を大切にしていましましょう。イエスの「愛し合いなさい」という掟は、よく言われる人類愛とは違って、外から見ても、内から見ても、お互いが大切にしている姿で実現します。

私の所属しているイエズス会を例にとれば、個性豊かで才能ある人が集まる修道会です。自分のもっているタレントをできるだけ伸ばそうという方が多くいます。そうすると、中には自己主張する神父さんもいます。自分はこれだけ本を出したとか、テレビに出たとか、そういったことを人にアピールし始めます。頼んでもないのに、自分が取り上げられた新聞記事をコピーして全員のレ

ターボックスに入れる神父さんもいます。そうすると、周りからは「自慢してる」というか、「自分だけ特別なんだ」とアピールしてるように感じてしまいます。わたしも昨年、何度かカトリック新聞に取り上げられたり、地方のNHKのニュースに取り上げられました。でも、高円寺教会に送り付けたりはしませんでした。反対に、「人に仕えよう」という神父さんもいます。長くイグナチオ教会で働いていたカンガス神父さん（今年88歳になります）と山口で一緒だったんですが、カンガス神父さんは「仕える姿」を見せてくれました。毎月、イエズス会の神父さんの集まる日には、アイスクリームを用意します。それもただ買ってくるだけではなくて「バニラがいいか？ チョコがいいか？ 両方がいいか？」とみんなに聞いて回ります。カンガス神父さんは、純粹に人を喜ばせたい気持でいて、さきほどの「自分は特別なんだ」という意識がどこかに神父さんとは違います。「仕える心」で人と関わられます。そんな姿が、「互いに愛し合うこと」「新しい掟を実践」します。今日の洗足の意味は、ここにあると思います。外から見ても、内側から見ても、仕え合う姿がある。キリスト教が新しい宗教として注目された、人を引き付けたポイントはここにあると思います。何か特別なことをするよりも、仲間を大切にする姿をイメージしましょう。外に向けて目立つことをするよりも、仲間を大切にしたいことを意識しましょう。

2点目は、イエスさまが聖体を制定された時の思いを考えます。第2朗読のコリントの教会への手紙にはこうあります。「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りを捧げてそれを裂き、弟子に与えた（ルカ 22・20）」とあります。取る、感謝の祈りをささげる、裂く、与える、この4つの動詞に、イエスさまがご聖体を聖体された思いが詰まっています。1つ目のパンを取る、選ぶということは、イエス様が、また、わたしたちが父なる神さまから特別に選ばれたことを意味します。何のとりえもないわたしたちですが、神様の目からすると特別大事、特別かわいい。神様から大事にされていることをまず思い浮かべましょう。2つ目は「感謝の祈りをささげる」です。イエスさまは、神様からどれだけ愛されていたかよくわかっていて、感謝の気持ちで一杯でした。ラザロをよみがえらせる場面でも、願いがかなえられる前に感謝の祈りを唱えています。願えば御父は必ずかなえてくださる。揺るがない信頼があったので、いつでも感謝の祈りを唱えることができました。だから、病人を癒したり、救いのメッセージを語れました。けれども、イエスさまの生涯はそこで終わってはいません。3つ目に「裂かれる」体験をします。「裂かれる」とは、受難、十字

架を表しています。明日、イエスさまは、逮捕されて、拷問を受けられて、十字架にかけられます。肉体的にも、精神的・霊的にも苦しめられます。全ての人を救うために、十字架を担われます。今晚から、明後日の夜まで「裂かれるイエスさま」を黙想しましょう。私の何を解放するためにイエスさまは苦しめられたのか？ 周りの人、また、東北で苦しんでいる仲間を助けるために裂かれるイエスさまを黙想しましょう。4つ目の動詞は「与える」です。2千年間、イエスさまが生きている時も、死んで復活した後も、たくさんの恵みが与えられてきました。時代を超えて、場所を超えて、神さまの愛は与えられ続けています。教会は、惜しみなく与えてきました。私たちも身近なところで、与えていきましょう。

洗足と聖体の制定の意味を心に刻んで聖木曜日のミサを続けましょう。